

## 居住地校交流を行っている

### 特別支援学校の子どもたちの保護者の声



「地域の子どもたちとつながりたい、友だちになりたい、という思いがありました。街中で声をかけられると、地域で暮らしている感覚があって嬉しいです。」

「地元の子どもたちと交流することで何気ない直球な言葉が出てくることもあります。そのような様々なつながりが自分たちの学びにもなっています。」

「交流を通して、自分を深く理解してほしいという思いがありました。」

「普段は少人数で学習していますが、集団での学習に参加することで、友だちの意見を聞いたり、集団の中で自分の意見を伝えたりする経験ができて良かったです。」

「はじめは居住地校交流をするかどうか迷っていましたが、特別支援学校の先生から背中を押してもらいました。子どもの成長した姿を見ることができて、交流を始めて良かったと思っています。」

## 居住地校交流を計画するまでのポイント



現場の先生方にお聞きしました！

Q 初めて居住地校交流を行う際のポイントはありますか。

A 管理職間で実施について確認した後、担当で打合せを行います。不安なときは思い切って対面で行うと、互いの子どもたちの普段の学習の様子などを確認することができ、互いに授業を組み立てやすくなります。管理職が同席することも効果的です。

居住地校交流を始めるタイミングはいつが良いのでしょうか。

子どもの実態や保護者のニーズを把握することから始めましょう。どの学年から始めても有意義となりますが、取材した学校では「小学校の低学年の方が互いのやりたい活動が組みやすく、子どもたち同士がつながりやすい。」との感想が多いです。年度末に次年度の年間スケジュールに組み込むことで、高学年まで継続的に取り組みやすくなります。

どのような活動をするとういでしょうか。

居住地校交流のために特別な内容を行うこともありますが、日頃の学習内容を生かした内容にすると、子どもたちも自信をもって取り組むことができます。それぞれの学校が教科の目標を達成できるように意識しながら、日常の活動を出し合ってみましょう。

互いの学校で特別な準備が必要となるのでしょうか。

特別支援学校に在籍する子どもの実態に合わせて、例えば、聴覚障がいのある子どもの場合は補聴援助システム、肢体不自由のある子どもの場合は車いすや移動できるスペースなどが必要となる場合があります。必要な準備については、事前の打合せで丁寧に情報共有を行いましょう。

医療的ケアが必要な子どもの交流ではどのような準備をするのでしょうか。

医療的ケアの内容、ケアを行う場所の環境整備などについて、本人・保護者の意向をもとに校内で検討して実施しています。校内で体制などを検討したうえで、特別支援学校の学校看護師が同行した事例もあります。

ゆきわり養護学校の事例をご紹介します。→



参考資料：「交流及び共同学習ガイド」平成31年3月文部科学省作成



「交流及び共同学習 学校間交流実践事例紹介」令和7年3月県教育局特別支援教育課作成



このリーフレットは県ホームページからダウンロードできます。



本リーフレットに関する問い合わせ先

山形県教育局特別支援教育課 〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号  
TEL 023(630)3286・2406 FAX 023(630)2774



# 交流及び共同学習

## 居住地校交流 実践事例紹介

～居住地校の友だちと共に 心をつなぐ学び合い～

### 交流及び共同学習の推進

○誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指す中で、交流及び共同学習を積極的に進めることは、障がいのない子どもにとっても、障がいのある子どもにとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育てる上で大きな意義を有するとともに、互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となります。

### 居住地校における交流及び共同学習

○交流及び共同学習には様々な形態がありますが、中でも、「居住地校における交流及び共同学習」は、特別支援学校に在籍する子どもと、その子どもが居住する地域の小・中学校等との間で行われるものです。障がいのある子どもには、地域社会の一員として豊かに生きるための生活基盤を形成することが求められており、また、障がいのない子どもには、地域の仲間として共に活動しながら障がいのある子どもへの理解を深めていくことが求められています。

参考リーフレット（平成29年4月県教育委員会作成）

「共生社会の形成に向けた交流及び共同学習の推進」



「管理職がリードする交流及び共同学習の推進」



ゆきわり養護学校と山形市立鈴川小学校のオンラインでの交流の様子

## 居住地校交流での学び合いの中から表れた子どもたちの声や姿

小学校・中学校の子どもたち

昔から一緒に過ごしている友だちだよ！  
困っていたら助け合うとお互い笑顔になるし、自分も嬉しくなるんだ。



一緒にいることが当たり前かな。スーパーとかで会うと「ヤッホー」って声をかけているよ。友だちだからね。

小学校に行ったら、友だちが手作りのボードを準備してくれていてびっくりした！  
違う学校を探検したり、プレゼントをもらったりしたのが印象に残っているよ。

特別支援学校の子どもたち



自分の学校のこと、障がいのことを伝えられたし、知ってもらえて嬉しかった。  
授業に参加できるか不安だったけど、みんなが声をかけてくれたから安心したよ。



このリーフレットは、県内の学校の実践事例を紹介することで、居住地校交流のより一層の充実と推進が図られるよう、作成しています。ぜひ活用ください。

令和8年3月 山形県教育局 特別支援教育課

# ～交流を積み重ね、互いを尊重し合い、豊かな人間性を育む実践事例の紹介～



## 山形養護学校小学部5年生のAさんが寒河江市立南部小学校へ

- 音楽の授業に参加し、互いの校歌を歌い合ったり、Aさんが曲を手話付きで歌って南部小の子どもたちが手話に挑戦したり、曲の歌詞に合わせて振り付けながら一緒に歌ったりしました。
- 昨年度の交流の経験を生かし、教員同士が互いの子どもたちを理解し合いながら、それぞれの学校が授業のねらいを達成できる授業内容を事前に検討し、実施しています。



### 子どもたちの声

- 「前日の夜はドキドキしたけれど楽しかった！一緒に好きな曲を歌って楽しかったし、友だちが増えたよ。」(Aさん)
- 「南部小のワークを持っていなかったけど、隣の席の友だちが見せてくれて、一緒に勉強したよ。」(Aさん)
- 「いつも楽しくやっている授業にAさんが来てくれてもっと楽しくなったよ！」(南部小)
- 「交流だけいつもの授業と同じだから、特別な気持ちはなかったよ。」(南部小)

### ポイント

- ・互いの学校の教員が**普段の授業で行っている子どもたちへの言葉かけや活動内容の工夫が生かされ**、Aさんも過ごしやすい雰囲気が作られ、全員が積極的に授業に参加し、笑顔が生まれている。
- ・管理職が積極的に**学校ホームページで活動の様子を紹介したり、授業の場面を録画し保護者向けに配信したり**することで、地域や保護者への啓発にもつながっている。

## ゆきわり養護学校小学部5年生のBさんが山形市立蔵王第一小学校へ

- 道徳の授業に参加して集団学習やグループ学習で学び合ったり、別日にはお楽しみ会で一緒にゲームをしたりしました。
- 医療的ケアが必要なBさんが安心して授業に取り組めるよう、ゆきわり養護学校から学校看護師が同行し、Bさんの体調確認、交流中の見守り、必要な医療的ケアを実施しました。
- 低学年からの積み重ねにより、休み時間にはBさんの周りを囲んで談笑するなど、自然な関わり合いが生まれています。



### 子どもたちの声

- 「たくさんの友だちの意見を聞いて、私一人では思いつかなかったことを知ることができたよ。」(Bさん)
- 「車いす用の机があってすごかった！話合いで意見を聞くことができて良かったよ。」(蔵王第一小)
- 「お楽しみ会で車いすでも参加しやすいゲームを考えて、一緒にできて楽しかったな。」(蔵王第一小)

### ポイント

- ・**年度当初や交流前に対面による打合せを実施し**、両校の子どもたちの普段の学習の様子やねらいを共有することで、活動内容が充実している。
- ・子どもたちの事前の顔合わせや当日に向けた意見交換、話合いなどでは**オンラインでの交流を積極的に活用している**。
- ・車いすのBさんも移動しやすいよう、上層階の教室ではなく1階や2階の特別教室を使用し、**交流場所を工夫している**。

## 山形聾学校小学部6年生のCさんが米沢市立塩井小学校へ

- 1年生から交流を継続しており、6年生では、連続した5日間、塩井小の授業に参加するとともに、山形聾学校の教員が出前授業を実施しました。
  - 低学年から継続することで、Cさんが居住地校の一員であり、日常であるという雰囲気が学級に醸成されています。
- ★事前・事後学習や活動のポイントなどを詳しく紹介しています ⇒ 



### 子どもたちの姿

Cさんはこれまでの交流で仲良くなった塩井小の友だちとコミュニケーションをとろうとする姿が見られ、教卓の周りで談笑する姿もありました。聞こえにくかったときに「もう一度言って。」と伝えることができていました。

塩井小の子どもたちは、Cさんが特参した補聴援助システムを体験して、実際の聞こえ方を学びました。その体験をもとに、マスクを外して話したり、はっきりした声で話したりすることが大事だと、自然な形で学ぶ姿がありました。

子どもたちが「伝わった」と実感をもつことで、自分も話しかけてみようとする積極的な姿が生まれていました。

### ポイント

- ・山形聾学校の教員が聞こえに関する**出前授業を実施した**ことで、塩井小学校の子どもたちが障がいに対する理解を深めるとともに、補聴器や補聴援助システムの実際を知ることで、他者とのやりとりで役に立てようとしたり、自分の耳の構造に興味をもったりするなど、社会の中で生きるために大事なことに気づくきっかけとなっている。
- ・Cさんの思いやニーズに合わせて、**事前の担任間の打合せで交流の趣旨を共有している**。

## 米沢養護学校中学部1年生のDさんが南陽市立宮内中学校へ

- 体育の授業に参加し、体を動かすゲームや、花笠踊りに取り組みました。
- Dさんは小学部に在籍していた頃から居住地校交流を継続しており、宮内中には小学校で居住地校交流を経験していた子どもたちが進学し、会話のやりとりやハイタッチなどのコミュニケーションが自然に生まれています。
- 交流に参加した宮内中の学級は、学級の全員がDさんと関わり、Dさんに寄り添っています。



### 子どもたちの姿

花笠踊りの練習で、互いの思いが通じ合わなくなったときに、Dさんは自分の気持ちを表現し、宮内中の子どもたちはDさんの表情や様子などをよく見て確かめDさんの思いを尊重して関わりました。どうしたら自分たちの思いが伝わるか、子どもたちが自ら考えて行動していました。その結果、Dさんは徐々に自信を取り戻し、再び練習に参加できました。

### ポイント

- ・小学校から積み重ねたことで、中学校では**子どもたちの自主的な学び合いが増えている**。
- ・花笠踊りの活動前にエンカウンターやゲームの時間を設けて互いが**打ち解けやすい雰囲気作り**をしている。
- ・宮内中学校が地域文化体験の題材として取り組んでいる花笠踊りを生かすとともに、**それぞれの学校が教科の目標を達成できるように活動内容を設定している**。



山形養護学校小学部2年  
奥山 陽介さん  
総合 「ぼくのカレーおいしいよ！」



山形聾学校高等部1年  
佐藤 桃花さん  
立体(塑像)「楽しいサザエ」

